



## かまくら市民クリスマス 献金先のご紹介



### 「ミャンマーの孤児院」への献金

2021年2月に国軍によるクーデターが発生し、民主化政策

を担っていた国の指導者や支持者は逮捕、拘束され、市民への発砲と暴力行為、違法逮捕が行われました。ミャンマー国内から近隣諸国への難民は90万人にも達し、食料、物資、衣料品が欠乏し、子供たちは教育が受けられないという人道危機に陥っています。

国の中でも特に弱い立場にいる少数民族の人々は人権を著しく侵害され、生活は困窮を極めています。現在もその状況はあまり変わっていません。日本の皆様方のご支援を頂きたく宜しくお願い致します。

☆ヤンゴン郊外にあるキリスト教系児童養護施設「愛・子ども育成センター」を支援します。ミャンマーでは、少数民族は国民扱いを受けておらず、キリスト教系孤児院には国からの援助は一切ありません。

☆施設では、現在5歳から17歳までの子ども約200名が共同生活をしています。

☆施設にいる子どもたちの1/3は両親がいないか、片親です。両親がいても中国に出稼ぎに行き帰ってきません。1/3の親は、仕事がなく、貧しいのが実情です。新しいトイレの増設が必要です。子供たちが住んでいる建物全体が老朽化し、ボロボロ状態でリフォームが必要です。子供達の心を育てる絵本・書籍が必要です。ミャンマーはお米の生産国であり、個人支援者達からの寄付で何とか賄えています。市場で余った野菜などを分けてもらっています。お肉（鶏肉）などは食べる事がとても難しいです。子どもたちは、朝お粥を食べてから登校しますが、学校では何も食わず、下校後施設に戻って食事をします。育ち盛りの子供達に栄養のある食べ物を食べさせることが出来るよう願っています。



### 「女性の家サーラー」への献金

「女性の家サーラー」は、日本に住む外国籍女性のための支援団体で、緊急一時保護施設の

運営をしています。主に家庭内暴力により被害を受けた女性と、その子どもたちがこの施設に一時的に避難し、利用しています。

#### ① シェルター

人身売買や配偶者暴力の被害などを受けた外国籍女性が、行き場を失ってしまった際に、一時的に滞在できる場所と食事を提供します。滞在中に、女性たちに心理カウンセリングや法律相談を受けさせたり、今後の生活のための計画をしたり、帰国のための準備をします。

#### ② 電話相談


電話での相談を受け、問題解決のお手伝いをします。シェルターを出た後の生活再建の相談も可能です。対応可能言語は、日本語、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語です（曜日によって異なる）。

### ③ 啓発活動

セミナー開催や通信の発行を通して、外国籍女性に関する理解啓発活動を行っています。専門家やその分野での経験者を講師として呼んだり、外部団体にこちらから講師を派遣したり、隔月で「サーラー通信」を発行しています。

#### 【現状】

2020年コロナ感染症による緊急事態宣言以来、コロナ禍で、狭い自宅でのリモートワークや、言語、文化の違い、特に仕事が減って、経済的に苦しい状況でDV被害を受けた母子が多くおり、利用者数は増加傾向です。コロナ以前には、教会バザーに参加して、サーラーの活動を紹介し、寄付も集まりました。また、外資系企業の職員たちのボランティア活動を通して募金活動が活発に行われました。が、コロナ禍により、そのすべての機会がなくなってしまいました。

 2022年は、この2団体に頂いた金額を半分ずつ寄付させていただきます 